

新 除 草 剤

水下で植付苗が水没するようなときは接触害がでる。また、漏水条件が大きい場合には、主にMCPに起因する生育抑制・ロール葉・茎数抑制・株開張等の症状が現われることがあるが、後に回復し、収量に影響することは殆んどない。

人畜毒性は極めて低く、またラッテ径口毒性はLD50が10,800mg/kg以上、魚毒性はコイで48時間、TLMが290ppmと極めて低い。

使用方法：普通期移植水稻の移植後5～8日及び中耕後湛水土壌処理用としては、10アール当り製品3～4kgを均一に散布する。

本剤の処理適期は、雑草発生始～盛期であるので、ノビエ1～2葉期頃までに湛水状態で均一に散布する。適用土壌（条件）は、砂壤土～埴土で日減水深3cm以下と広域にわたり使用できる。また、極端な深水・浅水時の使用は避け、散布時～散布後3～4日間は3cm程度の湛水状態を保ち、かけ流しは避ける。また稲体のぬれている時、軟弱苗の時は使用を避ける。

スエップ

MCC水和剤

日産化学工業株式会社
日本農薬株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分はメチル-N-(3,4-ジクロロフェニル)カーバメイトで、剤型は40%水和剤である。

本剤の作用特性は、移行性作用力大きい、やゝ接触的作用性をも併わせもっている。茎葉処理での選択殺草性はDCPAよりやゝ小さく、ノビエに大、イネに小でいわゆる属間選択作用

性をもっている。土壌処理では中程度の選択殺草性となる。従来のカーバメイト系除草剤と、著しく作用性を異にしている点が特徴である。したがって、雑草処理能力と、土壌処理能力とを併せもっている特筆すべき除草剤である。

雑草種類に対する殺草性は、雑草発生前の土壌処理及び雑草幼少時の雑草処理の何れの処理においても、ノビエ・メヒシバをはじめとするイネ科・広葉の各種一年生雑草に対しすぐれた効果を示す。

土壌中の移動性は小～中であり、効果の持続期間が極めて長いので、乾田直播水稻の乾田期間雑草防除及び陸稲など対象では、播種直後～イネ出芽揃期までの間の1回処理のみで効果高く、その後のDCPAなどの追加使用は省きうる。また、その間の処理では、作物に対する薬害の心配もない。また本剤は処理後に降雨があっても効力は殆んど低下しないことも特徴である。

人畜に対する毒性は殆んどなく、かつ低魚毒性の除草剤である。

使用方法：乾田直播水稻・陸稲に対し、播種直後～イネ出芽揃期に（イネ0.8葉期まで）に10アール当り1,000～1,250gを、畑苗代には播種直後に500～750gを水70～100ℓに稀釈して、均一に散布する。

イネ出芽揃期の処理は、イネの第1葉が未展開で垂直に立っている時期までに散布することが、薬害回避のために必要である。また、播種前にジメトエート粒剤を土壌処理してある場合は、本剤の使用を避ける。ただし、本剤を前記期間に処理した場合は、処理後1週間経過すれば、有機リン剤やNAC剤を散布して差し支え

新 除 草 剤

ない。

グラモキソン パラコート液剤

I C I 社
日本農薬株式会社
武田薬品工業株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、1・1'-ジメチル-4・4'-ビピリジリウム・ジクロリド24%の液剤である。

殺草特性は、強力な接触作用をもつ除草剤である。すなわち、茎葉に附着した薬液は、短時間に体内に浸透し、枯草作用をあらわす。そして、光・葉緑素・酸素の要因がそろった場合に極めて高い殺草力をあらわす。その症状は、散布後1～2日目から雑草の葉先が黄化し始め、4～5日で枯死する。

選択殺草性はなく、イネ科・広葉雑草いずれにも強力に作用する。

残効性は、土壤中に入るとただちにイオン交換によって吸着不活性化されるので極めて短い。また、土壤中の移動性もない。したがって本剤は、発芽して生育している雑草に対して効力がある雑草処理剤である。

毒性については、マウス経口毒性LD50が195mg/kgと劇物相当の毒性をもっているのので、PCP同様皮膚付着や経口吸入をさけるよう注意する。魚毒性は、小さいようである。

使用方法：乾田直播水稻に使用する。散布時期は、播種前1週間前～前日に雑草処理をする。10アール当り本剤200～300ccを50～150ℓの水にうすめ、非イオンの展着剤を加

えて、加圧噴霧機で、雑草の茎葉が充分ぬれるよう散布する。

使用上の注意としては、雑草体が乾いている時に散布する。なお散布液が付近の作物の茎葉にかからないよう注意する。

本剤は、このほか、水稻刈取後のマツバイ防除、麦類の播種前処理、果樹園用下草除草、ソ菜類畦間処理、牧野草地、桑園対象としても適用される。

シメトリン粒剤2.5

ガイギー社
日本化薬株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、2-メチルチオール-4・6-ビス-エチルアミノ-S-トリアジンで、剤型は2.5%粒剤である。

本剤の作用特性は、他のトリアジン系除草剤（シマジン・プロメトリン等）と同様、吸収移行型除草剤で、光合成の阻害によって雑草を枯死、または発芽を抑制する。雑草種類に対する選択性は余りなく、イネ科及び非イネ科雑草すべてに大～極大の効力がある。また雑草の葉令からみた処理適期幅はタイヌビエの発芽時～1葉期に極めて高いが、3葉期以降では、やや小さくなる。

適用雑草は、一年生雑草のイネ科・広葉および、多年生雑草のマツバイに対してもかなりの効果があり、ヒルムシロに対してはプロメトリン同様卓効を示す。その他ウキクサ・藻類にも高い効果を示す。

土壤中の残効期間は長い。また温度による効